

交通ルールを守って
つながる笑顔



かながわの交通

2013

2

今年の交通安全年間スローガン優秀作(警察庁長官賞) 一歩行者・自転車利用者に対するもの一

夕暮れは 気をつけ 落ちつけ ライトつけ



箱根駅伝大会(権太坂付近)



自転車はどこを走ったらいいの...? 教えて!

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(25年1月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		2,624	13	3,157
平成24年		2,809	12	3,342
増減数		-185	+1	-185
増減率		-6.6	-8.3	-5.5

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,072,533	4,543,244	4,529,289
免許人口	5,539,326	3,222,130	2,317,196
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人

(県人口は平成25年1月1日、免許人口は平成24年12月末現在)

交通事故発生状況と死亡事故の特徴 (平成24年中)

●交通事故発生状況

区分	全交通事故			高齢者事故			
	発生件数	増減数	増減率	発生件数	増減数	増減率	構成率
発生件数	37,049件	-1,751件	-4.5%	9,712件	+47件	+0.5%	26.2%
死者数	179人	-1人	-0.6%	59人	+5人	+9.3%	33.0%
負傷者数	44,135人	-2,091人	-4.5%	5,280人	-34人	-0.6%	12.0%

※増減数(率)は対前年比、構成率は全交通事故に占める高齢者事故の割合

●交通死亡事故の特徴

〔年齢層別〕

年齢層	人数
高齢者(65歳以上)	59
60~64歳	19
50歳代	29
40歳代	15
30歳代	24
25~29歳	10
16~24歳	20
15歳以下	3

●高齢者(65歳以上)が最も多く全体の33%

〔状態別〕

状態	人数
歩行者	75
二輪車	46
自転車	17
原付	13
自動車	28

●歩行者が最も多く全体の41.9%

〔原因別(1当原付以上)〕

原因	件数
前方不注意	36
操作不適	26
歩行者妨害等	24
交差点安全義務	12
優先通行妨害	10
最高速度等	9
信号無視	8
安全不確認	8
その他	25

●前年比で歩行者妨害等(+10件)、操作不適(+6件)が増加

〔事故類型別〕

事故類型	件数
人対車両	74
車両相互	68
車両単独	37

●人対車両事故の構成率が増加

●〔交通事故死亡者数の推移〕

年	人数
平成24年	179
平成23年	180
平成22年	182
平成21年	175
平成20年	189
平成19年	237
平成18年	240
平成17年	252
平成16年	273
平成15年	300

●統計史上平成21年について2番目に少ない

〔時間帯別〕

時間帯	人数
4時~6時	15
2時~4時	11
0時~2時	14
22時~24時	17
20時~22時	13
18時~19時	24
10時~18時	13
14時~16時	9
12時~14時	12
10時~12時	16
8時~10時	17
0時~8時	18

●前年比で18~20時が最も増加し、22~24時が最も減少

賛助会員の紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 大洋石油(株) ————— 横浜市西区北幸
- (株)横浜銀行本店 ————— 横浜市西区みなとみらい
- キリンビール(株) ————— 横浜市鶴見区生麦
- コカ・コーラセントラルジャパン(株) ————— 横浜市西区みなとみらい
- 三菱重工業(株)電動機事業本部横浜製作所 ————— 横浜市金沢区幸浦

第53回交通安全国民運動中央大会で表彰

去る1月16日、秋篠宮、同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第53回交通安全国民運動中央大会が日比谷公会堂で盛大に開催されました。国歌斉唱、交通事故犠牲者追悼の黙とうの後、秋篠宮殿下のおことばを賜り、来賓祝辞、交通荣誉章「緑十字金章」、同「緑十字銀章」の表彰に続いて、優良交通安全協会として当県の小田原交通安全協会と海老名市交通安全協会が表彰され、最後に交通安全宣言が行われました。

●小田原交通安全協会

〔沿革等〕

小田原交通安全協会は小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の1市3町で交通事故が増加したことへの対策の為、現行警察制度の発足と同時に昭和29年10月に設立され、事務所は3度の移転をして現在に至っております。

小田原警察署管内は、国道1号線・国道255号線・国道138号線・西湘バイパス・小田原厚木道路・箱根新道・ターンパイクなどがあり、それらを利用し天下の剣と言われる国際観光都市の箱根や小田原城下町を訪れる人や、国道135号線を利用し真鶴や湯河原へ、更には伊豆方面への通過路として県内外からの観光客はもちろん外国要人も大変多く訪れることから、年間を通じて交通量も多く、また山岳地帯を抱えて交通事故が多いため、警察や関係機関・団体などと交通安全活動を推進し、安全な地域の街づくりを心がけています。

〔組織と活動〕

当協会は、青木会長以下の役員、25支部員、交通指導員等大勢のボランティアの皆さんと事務局4名の職員が、年間を通じて各季の

交通安全運動等で警察や関係機関・団体等と交通安全活動を展開しています。

特に、小田原警察署管内は1市3町の4行政機関が行う各季の安全運動のキャンペーン等が重複し、調整するのが大変ですが、警察や関係機関・団体等の連携のもと交通事故防止活動を展開しています。また、こどもの交通安全教育、特に自転車教育に熱心に取り組む、交通安全子ども自転車大会においては21年間、神奈川県大会で優勝し全国大会に出場しています。こうした一連の活動が評価され、このたび「第53回交通安全国民運動中央大会」で受賞の栄に浴し、大変名誉なことと思っています。

今後とも、警察や関係機関・団体等と連携し地域の交通安全への役割を果たしてまいりたいと思います。

(小田原交通安全協会：

川辺 記)



●海老名市交通安全協会

〔沿革等〕

海老名市交通安全協会は、昭和46年に海老名市が誕生し、平成13年5月海老名警察署の発足とともに設立、平成17年4月同警察署が運転免許証の「即日交付警察署」に指定されてからは、業務量の増加に対応しながら現在に至っています。

海老名市には、当市出身の著名人として忘れてはならない人に、「青年よ大志を抱け」と訓し、後世に伝えた文学博士の大島正健氏があります。また市内には、古代遺跡としても有名な先土器時代遺跡をはじめ、相模国分寺・尼寺という遺跡が残されています。交通機関としては小田急小田原線、相模鉄道線、JR相模線が乗り入れ、道路網も国道246号等主要幹線道路のほか、東名高速道路の海老名サービスエリアや、さがみ縦貫道の海老名インターがあり、各方面への交通アクセスも格段に良くなっています。

このように海老名市は歴史と文化、交通の利便性にも恵まれた環境にあり、人口増加率が高く、大型店舗や企業等が進出するなど、海老名駅を中心に急速に発展していますが、さらに海老名駅西口の開発に関する報道等でご案内のとおり、これに一段と拍車がかかることが予想されますことから、当協会としましては、年々増加する交通車両など輻輳する交通情勢に的確に対応するため、警察署、交通安全対策協議会、関係機関・団体と緊密に連携しながら実効ある交通安全活動を推進することとしています。

〔組織と活動〕

当協会の構成は、佐久間会長以下総勢97名の交通ボランティアの皆さんと事務局員5名の職員です。

当協会の活動の特徴は、海老名市のイメージキャラクター「えび〜にゃ」の活用等市交通安全対策協議会との連携・協力はもちろんですが、各季の交通安全運動等においては、関係機関・団体のほか、特に多くの県立高校生の参加を得て、自転車のマナーアップや飲酒運転根絶の呼びかけなど自主的に活発な交通安全活動を展開し、成果を上げていることではないかと思っています。

このたびは、こうした一連の活動が評価され、「第53回交通安全国民運動中央大会」で受賞の栄に浴し、大変名誉なことと思っています。

今後も、地区内の交通事故の特徴である自転車事故をはじめとして、交通事故のない安全で住みよい街づくりを目指して、協会役員、交通指導員、警察署、交通安全対策協議会、関係機関・団体と一致協力して交通安全活動に取り組んでまいりたいと考えています。

(海老名市交通安全協会：藤城 記)



第53回交通安全国民運動中央大会交通安全宣言文

宣言

交通安全、それは国民全ての心からの願いです。

この願いと努力にもかかわらず、依然として多くの交通事故が発生しています。

私たちは、ここに第53回交通安全国民運動中央大会を開催し、生命の尊さと交通事故の悲惨さを深く認識し、国民一人ひとりの交通ルールを遵守する意識を高めて、安全で快適な交通社会を実現するため、関係機関・団体をはじめ道路交通の場に参加する全ての人々と協力し、全国の家、地域、学校、職場において、次の交通安全対策を、国民運動として、強力に推進することを誓います。

- 1 子供と高齢者の交通事故防止
- 1 歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 1 飲酒運転等悪質・危険な運転の追放
- 1 全ての座席のシートベルト、チャイルドシートの正しい着用の徹底
- 1 交通安全教育指針に沿った交通安全教育の推進

以上 宣言します。

平成25年1月16日

第53回交通安全国民運動中央大会

交通事故の悲劇に学ぶ ①

●もう逃げてはいけない

冬の寒い金曜日でした。私は、数年ぶりに友人たちと再会の約束があり、仕事を終えた午後6時過ぎに待ち合わせ場所へ向かいました。久しぶりの会食は、とても賑やかで時間を忘れるほどでした。酒量も普段より多かったかもしれません。気がつくと時計は終電の時刻を過ぎており、私は同じ方向へ帰る友人とタクシーを使うことにしました。当時私は、自宅から最寄り駅までの2kmを自家用車を使い、そこから電車に乗り換え30分ほどかけて通勤していました。

この日はタクシーを待つ行列は長く、1時間ほど並びました。ようやく私達の番になり、まず友人宅へ向かいました。そして友人と別れたその後、一人になった私が運転手さんに告げた行き先は、自宅ではなく自分の車が駐車してある最寄り駅でした。友人の前ではこのままタクシーで帰宅するような素振りを見せながら、「寒空の下、タクシー待ちで酒も抜けただろう。いつも通るちょっとの距離だから大丈夫」などと自分勝手な言い訳を心の中で呟き、とうとうハンドルを握ってしまいました。

そこは、見通しの良い直線で、鉄道と交差する高架橋でした。今思うと、その時の私は漫然とただ前だけを見て運転しており、目の前よりもずっと先にある高架の山を越えた信号の方に気が向かっていました。凍えるような寒さの深夜に、まさか高架橋を人が歩いて渡っているなどという危機意識は私の頭の中にはなく、気が付いたときには人の後ろ姿が目の前でした。ブレーキを踏む間さえない体当たりでした。車を止め、後ろを振り返りましたが人影はありません。「とんでもないことをしてしまいました。間違いなく会社はクビになる」。その時頭に浮かんだのはそんな自分のことばかりで、私が傷つけてしまった人のことを考える余裕などありませんでした。やがて後続車がやってきました。1台、2台と私を追い越していきましたが事故に気付いた様子もなく、私の車を不審に思うでもないように高架を超えた先で信号待ちしているように見えました。「誰も見ていない。このまま逃げてしまおう」突然訪れた抱えきれない責任の重圧に頭の中はパニック状態になり、そのままそこから逃げ出してしまいま

した。

私が殺してしまった方は、私より1つ年上の会社員の方でした。酒宴の帰りでタクシーがつかまらず、歩いて帰宅される途中だったということの後で聞きました。私が傷一つなく生き残っていることに、深い罪悪感を感じました。生命を落とすべきは飲酒してハンドルを握った私の方だったのにと。

被害者の息子さんと私の娘は、同じ小学校に通う同学年でした。私の家族はすぐに転居を余儀なくされ、半年ほど過ぎたところで妻から離婚届が刑務所に送られてきました。2つの家族を一瞬のうちに破壊し、残された2人の母親と4人の子供達の心に大きな傷を与えてしまいました。

こうして自分のしたことを振り返ると、背筋が寒くなります。自分は何と愚かで醜い心の持ち主なのだろうと、恥ずかしくて悔しくてなりません。私が起こしたことは、「交通事故」では済まされない、自動車という凶器を自分勝手に振り回した「交通犯罪」です。まさか自分が犯罪者になろうとは想像もしていなかったのです。まもなく3年が経ちます。出所の日が近づいてきました。事件直後、私は目の前にある現実を受け入れることが出来ず、逃げてしまいました。そして、刑務所という現実社会から隔離された場所で世間の厳しい風から守られてきました。けれどこれからはもう逃げません。自らの罪をしっかりと心に刻み、果たすべき責任をきちんと抱えていきます。何をすれば責任が果たせたとと言えるのか分かりません。どんなに謝罪してもご遺族の悲しみや怒りが消えることはないでしょう。それでも私に出来ることは何なのか、ずっと探し続けて生きていく覚悟でいます。

今日も悲惨な交通死亡事故が起きてしまっています。こうした報道を見るたびに胸が苦しくなります。私と同じような過ちを犯す人が二度と現れないことを心から願っております。

－(財)東京交通安全協会編集発行

「贖いの日々(47集)」から－

会社員(45歳)



インフォメーション

- 3月1日(金) 交通指導員連絡会議 県協会会館
- 3月7日(木) 優良職員表彰式 ロイヤルホール
- 3月7日(木) 第7回理事会 ロイヤルホール
- 3月15日(金) 表彰審査委員会 県協会会館

《神奈川フィルハーモニー管弦楽団応援コンサート》

県交連安全協会も応援しています!

- 日時 2013年4月20日(土) 開場～午後2:00
- 開演～午後3:00
- 場所 よこすか芸術劇場

※予約、チケット等詳細は横須賀芸術劇場
電話予約センター 046-823-9999



平成25年神奈川県交通安全協会賀詞交歓会

1月30日(水)、ロイヤルホールヨコハマにおいて黒岩知事、久我警察本部長をはじめ関係機関・団体の代表者など多くの方々にご臨席をいただき、平成25年公益財団法人神奈川県交通安全協会の新春賀詞交歓会を開催しました。

冒頭において、今年の交通安全国民運動中央大会で交通栄誉章緑十字金章・緑十字銀章を受章された方々に対する記念品の贈呈が行われ、石坂会長から、ご自身の体験に基づく自転車利用者及び高齢者に対する対策について、協会として交通ルールの遵守とマナーの問題に対応しながら「事故ゼロ」を目指して頑張りたい旨の挨拶の後、来賓として黒岩知事、久我警察本部長から祝辞をいただいて盛大かつ和やかに意見交換を行い、各団体の方々との懇親を深め、連携・協力して新年から交通安全活動に取り組むことを誓いました。



神奈川県交通安全対策協議会総会開催

～ 平成25年度事業計画案等を審議 ～

1月31日(木)、横浜市中区のワークピア横浜において、「神奈川県交通安全対策協議会総会」が開催されました。総会では3年間以上交通事故死者数「ゼロ」の開成町、松田町、真鶴町、湯河原町の各交通安全対策協議会、平成24年の交通事故死者数を「ゼロ」に抑止した平塚市、寒川町、中井町、大井町、清川村の各交通安全対策協議会、交通死亡事故死者数の減少率等が優秀であった厚木市他8交通安全対策協議会と、交通安全活動に多大な功労のあった(社)神奈川県バス協会、(社)神奈川県トラック協会に黒岩会長(県知事)から感謝状が贈呈されました。続いて交通安全部会、交通施設部会、踏切対策部会、暴走族部会及び高齢者対策特別部会から、それぞれ平成24年度事業報告と平成25年度事業計画案に対する審議が行われました。

第11回逗子市交通安全協会交通安全ポスターコンクール

逗子市交通安全協会では市内在住の小学生を対象に、子ども達の交通安全意識の醸成を図るため、毎年小学校の夏休み明けに交通安全ポスターコンクールを開催していますが、併せて市民の交通安全意識の高揚に寄与するため、コンクール応募作品を市役所に、優秀作品を市民まつり会場や警察署に展示するなど広報啓発活動を推進しています。ここではそのうち逗子市長賞を受賞した優秀作3作品をご紹介します。(敬称略)

逗子市長賞



(逗子小1年 若命謙次朗)



(逗子小4年 榎本萌子)



(沼間小6年 二村芽吹)



ハンドルキーパー運動の紹介

その274 保土ヶ谷交通安全協会

保土ヶ谷交通安全協会(板橋悟会長)では、相鉄線天王町駅周辺において、飲食店街を通行する車両の運転者にチラシを配布したり、店舗を訪問してハンドルキーパーのミニ幟旗を配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その273 金沢交通安全協会

金沢交通安全協会(横井正巳会長)では、京急富岡駅周辺の飲食店街において、幟旗を掲げ2班に分かれて飲酒運転根絶キャンペーンを行い、啓発物を配布しながら飲酒時のハンドルキーパーの確保を呼びかけました。



その276 逗子市交通安全協会

逗子市交通安全協会(小林壽志会長)では、市と警察署と合同によりJR逗子駅前前で歩行人に飲酒運転根絶を呼びかけるとともに、同駅前の飲食店を個別訪問してチラシやティッシュを配布しながらハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その275 港北交通安全協会

港北交通安全協会(嶋村尚美会長)では、警察署と連携し、総勢60人で、東急東横線日吉駅通路及び同広場において、乗降客等にカップホルダーやチラシを配布しながら飲酒運転の根絶を呼びかけました。



～ 平成25年神奈川県警察年頭視閲式 ～

1月9日(水)、県警第1機動隊において警察官約800人、白バイやパトカーなどの車両約70台とヘリコプター、警察犬が参加して年頭視閲式が開催されました。式には黒岩神奈川県知事をはじめ関係機関・団体の代表者が来賓として列席し、来賓、見学者合わせて1,000人を超える県民が見守る中、久我県警本部長による部隊巡閲、各部隊の分列行進等に続いて、昨年の全国白バイ大会で個人総合優勝を飾った玉井巡查長ら県警白バイ隊による華麗かつダイナミックなテクニカル走行及び機敏かつスマートな要人警護訓練を展開して会場から拍手喝采を浴びていました。



トピックス

忙中閑あり、冬の時期、講習部中長期講習課の講習棟・4号館横の庭のフェンスには餌を求めて小鳥がやってきます。

講習棟事務室の窓から、講師が、自分たちで作った餌付けの仕掛けを気にしながら見て、小鳥がやって来ると感激し、蜜柑を啄んでいる姿をじっと凝視し、忙しい講習業務の合間の束の間のひとときを楽しんでいます。

その小鳥たちも小寒の頃まではかわいらしいメジロでしたが、大寒の頃には少し大型の小鳥に場所を占領されて、ヒヨドリなどが我が物顔で餌を啄んでいます。





秦野市交通安全協会
会長

なかだ さだよし
中田 定美さん

秦野市交通安全協会は、昭和23年3月に発足、平成17年4月秦野警察署の移転に伴い、現在地の国道246号線新町交差点脇に鉄筋3階建て事務所を構え、今年65年目を迎える協会です。今回は昨年6月1日付けで新会長に就任しました中田定美（68歳）さんをご紹介します。

中田会長は、富山県八尾町（現、富山市）出身で、20歳代に富山市内で土木建設業を起業した後、25歳の時に東名高速道路建設工事に従事するため、交通安全協会から直線で200メートルの秦野市内に自宅兼会社を移転して定住されたのです。

秦野の地で、自分の子供たちが無事に成長しているのは、地域の交通安全活動を実施している「安全協会」の方々が見守ってくれているお陰」と感謝する思いが忘れられず、39歳の時に、「秦野に恩返しをしたい」という思いと家族の理解による後押しがあり、秦野市交通安全協会南支部役員として活動を始めました。

以来、当協会南支部長、協会副会長を歴任、通算31年の長きにわたり、当協会発展のために数々の事業を推進してまいりました。特に、現在の協会事務所建設に当たっては、多忙を極める業務の傍ら、建設副委員長として専門的知識を駆使して設計施工から竣工落成まで長期かつ広範囲に尽力されるなど、まさに「率先垂範」そのものを示すリーダーシップを発揮されました。



中田会長は、几帳面で細やかな気遣い、心配りをされる性格から秦野警察署協議会会長、自治会副会長も歴任するなど関係各団体からの信頼も厚く、交通安全協会賛助会員の獲得拡大に多大な貢献をされるなど、地域の交通安全活動に対する実直でひたむきな実績が認められ、今年1月16日の「第53回交通安全国民運動中央大会」において交通安全章緑十字銀章の栄誉に輝きました。

中田会長は、「子供たちの痛ましい事故と高齢者の交通事故防止を最優先」とした啓蒙活動を強力に推進するためには、関係機関との連携はもろろん、協会役員が一致団結して臨むことを再確認し、全役員の制服・襟章等をリニューアルして各人の自覚を促すとともに自らも襟章を直し、各キャンペーン会場で陣頭指揮を執っている元氣な会長さんです。

私生活では、カラオケとかかなりのスコアで回るゴルフを趣味としており、お酒は飲みませんが「たてやまのー」で始まる、わびさびのきいた演歌には、会長のふるさと富山を連想させる名調子が響きます。

地元では「ナカダさん」と呼ばれるように、幅広く誰にでも親しまれる人柄であり、職員にも気軽に声を掛けてくれる頼りになる中田会長です。これからも会長を陰で支えておられる奥様と長男・次男の協力に感謝しながら、健康に留意され、益々のご活躍を期待しています。

（取材協力：秦野市交通安全協会）

こんにちは
「麻生交通安全協会」です

本シリーズ2回目の今回は、当交通安全協会が特に力を入れている活動について紹介します。

麻生区でも御多分に漏れず高齢化が進み、人口約17万人に対し免許保有者約11万人、うち高齢免許保有者約1万5千人で、全体の13.8パーセントを占め、その構成率も増加傾向にあり、川崎市内でも最も高い比率を示しています。

また、昨年の麻生区内の人身交通事故から見ても、発生420件（前年比+10件）、死亡事故3件（前年比+1件）、負傷者491人（前年比+2人）ですが、そのうち高齢者事故の発生件数は107件（前年比-20件）と減少しているものの、全体の25.5パーセントを占め、依然として

高い構成率がここ数年続いています。

そこで当協会は麻生警察署と協力し、高齢者による交通事故の防止を推進するため、シルバーライティングスクール等あらゆる機会を通じて、高齢者に対する交通安全教育に力を入れています。（もちろん、小中学校生徒等に対する交通安全教室等も実施しています。）

その際、教材として活用しているのが、「高齢者の歩行者・自転車事故防止『いつもの行動が危ない!』」のリーフレットです。この教材は、高齢者向けの「歩行者」、「自転車利用者」、「夜間」の3部構成で、受講者等から「文字が大きく読みやすい。」等と好評を得ており、少しずつではありますが、効果が見え始めております。

これからも高齢者事故の防止のみならず、さらなる効果を求め、麻生



警察署や関係機関・団体と連携しながら、麻生区内から交通事故を1件でも少なく、また、死亡事故ゼロを目指すための活動に努めていく所存であります。

（齋藤 記）

地区交通安全協会の活動紹介



神奈川
JR新子安駅前広場において、交通事故発生状況等の説明の後、同広場及び周辺道路でチラシ等を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



中原
法政大学野球部の六大学秋季優勝パレードと合同により、小杉商店街、武蔵小杉駅区役所の間をパレードし啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



座間
警察署前において、「ゆず」りの合いのネーミングで袖を、他にカップホルダーやティッシュボックスを配布して交通事故防止キャンペーンを実施しました。



津久井
会長が地区内の幼稚園にもみの木を寄贈し、会長自らパンダのぬいぐるみを着用して交通安全の講話を行い、園児に交通安全を呼びかけました。

磯子
京急杉田駅前から国道16号まで杉田小学校生徒を先頭に、交通安全パレードを行い、駅乗降客、買物客等に啓発物を配布して交通安全を呼びかけました。



栄
JR本郷台駅前に、チャイルドシートとダミー人形を持参し、幼児の母親に着装の必要性、正しい着装要領について説明するなど、交通事故防止キャンペーンを行いました。



平塚市
JR平塚駅北口において警察署、交通関係団体と連携してリングやチラシを配布しながら自転車マナーアップキャンペーンを展開しました。



相模原北
JR橋本駅北口デッキにおいて、幟旗を掲出し、通行人にミニカイロやウェットティッシュを配布しながら年末年始の事故防止を訴えました。



編集後記

今年の冬は異常に寒い。札幌では年明けから1月上旬に一度もプラスの気温にならず、これは1977年以来36年ぶりの記録だそうです。また、成人の日に当たった1月14日に爆弾低気圧がもたらした大雪は横浜で15年ぶりに13センチの積雪を観測し、新成人たちは降りしきる雪の中、式典会場へ向かいました。

さて、昨年の交通事故情勢につきましても、発生件数、怪我をされた方についても、12年連続して減少し、いわゆるトリプル減少を達成することができました。これは各地区交通安全協会を中心とした交通指導員の皆様方が日頃から交通整理監視活動を実施し、交通事故防止や交通モラルの向上に努めていること、そして、当協会が飲酒運転根絶に向け推進する「ハンドキーパー運動」が少しずつ定着してきていることも要因ではないでしょうか。

このような交通安全活動において顕著な業績を上げられた功労者の方々に対しては、先月16日、日比谷公会堂で第53回交通安全全国国民運動中央大会が開催され、交通安全表彰章等の表彰式が盛大に挙行されました。受賞者の皆様「受賞おめでとうございました。」

今年は巳年。巳年は変化発展の年と言われています。年明けから円安に株高と経済建直しの明るい兆しが見えてきました。今年4月には当協会も公益財団法人になって3年目に入ります。そして創立65周年の節目の年でもあります。

交通安全の活動の結果が良い方向に行きますよう、今年も交通事故防止を訴え続けていきたいと思います。

(太平 記)